

政務活動費実績報告書

令和5年3月31日

久慈市議会議長 畑 中 勇 吉 様

会派名 政風会

代表者名 会長 小 柳 正 人



政務活動費の交付に関する条例第8条の規定により、次のとおり報告します。

使 途	<input type="checkbox"/> 調査研究費	<input checked="" type="checkbox"/> 研修費	<input type="checkbox"/> 広報費	<input type="checkbox"/> 広聴費	<input type="checkbox"/> 要請・陳情活動費
	<input type="checkbox"/> 会議費	<input type="checkbox"/> 資料作成費	<input type="checkbox"/> 資料購入費	<input type="checkbox"/> 人件費	<input type="checkbox"/> 事務所費
実施期間	令和5年3月29日(水)				
実施場所	岩手県大槌町				
参加者名	小柳正人、小倉利之、佐々木栄幸、清水崇文				
実績額	101,067 円				
内 容	別紙のとおり。 ※(内訳) 視察費 38,000円 <u>交通費(バス) 63,067円</u> 101,067円				

令和4年度政風会・日本共産党久慈市議団
合同所管事務調査報告書

1 調査期間

令和5年3月29日(水)

2 調査先

岩手県大槌町、陸前高田市

3 調査委員等

政風会：小柳正人代表、小倉利之幹事長、佐々木栄幸事務局長、清水崇文
日本共産党久慈市議団：城内仲悦代表、橋上洋子

4 調査事項

(1) 大槌町

「害獣を町の財産に～大槌ジビエソーシャルプロジェクトの取り組み」

(2) 陸前高田市

「日本海溝地震に備える伝承活動～東日本大震災津波の悲しみを繰り返さないために」

5 調査結果

■大槌町

1 日 時 令和5年3月29日(水) 午後10時00分～午後12時00分

2 場 所 おおつち

地場産業活性化センター、鹿肉
処理加工施設（ジビエ Works～
三陸山物語～）東北初国産ジビ
エ認証（令和5年9月に認可予
定）



3 相手方

《MOMIJI側》兼沢幸男、藤原朋、松下亜香里（地域おこし協力隊）他
《岩手県沿岸広域振興局》千田拓洋 農林調整課長

(1) 導入の経緯

5年前に移住した藤原朋さんがコーディネーターとして地域の課題を産業にした。官民一体となって有志の勉強会からスタートし、現在「MOMIJI」の代表である兼沢幸男氏が中心になり「害獣をまちの財産にできないか」という発想のもと地方創生交付金の助成を受けながら2年半かけて現在に至った。



(2) 大槌町の社会課題

○衰退する大槌町：東日本大震災の影響

響で人口減少に拍車がかかり、地域の持続性に懸念が生じていた。

○増えゆく鳥獣による農作物への被害：シカをはじめ野生鳥獣による農作物被害が増え農家へ深刻なダメージを与えていた。これによる離農・耕作放棄

○「奪った命」の殆どが「処分」：全国でも野生鳥獣の10%しか食肉処理されていない、大槌町においても殆どが焼却処分されている。

(3) プロジェクトのはじまり

捕獲した野生鳥獣の「命」の有効活用を目指し、2017年に「大槌ジビエ勉強会」が発足した。2年半にわたる40回以上の勉強会を重ね、岩手県初のジビエ加工事業者「MOMIJI」と地域内外の様々な専門性を持ったメンバーによるチームが形成され2020年5月「大槌ジビエソーシャルプロジェクト」がはじまった。スタートさせるにあたり、兼沢幸男氏が自ら借金してでも立ち上げるという熱意が町に伝わり、地方創生交付金の活用につながった。委託事業であることから、運営会社が必要となり「(株)ソーシャル・ネイチャー・ワークス」代表取締役藤原朋を立ち上げ現在3期目で関係交流人口の増加でしっかりと成果をあげている。

(4) 大槌ジビエソーシャルプロジェクトの目的

害獣とされる野生鳥獣をまちの財産にしたい。課題解決というアプローチと持続的な発展としてSDGsの根幹でもある産業ビジネスに変えていく事であった。

(5) 質疑応答

質問：全国にはどのくらいの事業者があるか

答弁：全国には734事業者がある。うち成功事業者はMIMIJIを含め100事業者だ。東北にも圧倒的に少ない。県内には2箇所で雫石にあるが未だ食肉加工を満たした処理施設にはなっていない。

質問：被害状況は。

答弁：全国の被害報告額は一部であって全件数とは数字がかけ離れている。これは、農家が申告し初めて被害件数とカウントするが農家の方も高齢化しており申告せず、あきらめているケースが多い。

また、耕作放棄地の増大により全国的にも被害額の増加の一途をたどっている。

質問：捕獲頭数は。

答弁：県内では約2万頭のシカが捕獲されている。

2年前の県の発表では11万頭のシカが生息しているのではないかと推測されている。シカは1歳から妊娠するが、1.25倍で増殖する。1万頭いれば翌年は1万2,500頭になっている。要するに昨年生まれたシカが今年は妊娠する事になる。全国ではシカは72万頭捕獲され、うち734施設で1割しか食肉として使われていない。イノシシは53万頭だが豚熱(豚コレラ)の影響でやむなく捨てているという状況で今後の課題だ。

質問：2年半でどんな会議がもたれたのか。

答弁：農家からは農作物被害、JRや車への衝突事故は頻発していることを訴えるが、行政は電気柵を推奨するがシカは近づかないだけで減らない。また、ハンターも高齢化して減る一方だった。こうした課題解決の抽出と現状共通認識を図る事に2年半費やした。1回目はひどかった、町内会長や地元の名士と言われる方々と、行政の課題解決懇談は、これは行政の問題だから役場でやるべきだ！工場を建てろ！とか、いきなり喧嘩みたいになり、そんな場所ではないですよ。と仲裁しどちらでも偏らないコーディネーターが必要だったという事だ。それを藤原と兼沢社長が担い一方的な立場や視点に立

たないということを念頭にみんなで視察に行ってきた。

質問：出荷規制の解除は。

答弁：東日本大震災の福島原発事故により県内で出荷規制がかかった。そこで岩手県知事から更生労働省の原子力対策本部長が総理大臣を兼任されているので岩手県知事から大槌町に処理工場が建設されるから一部解除してくれと申し入れをしてもらうためには岩手県の全面的な協力がないと出来ないので大槌町長から県知事へお願いし、県知事から国の方へお願いし、出荷制限の解除をしていただいたというプロセスだ。

質問：他市の事例から学んだことは。

答弁：千葉県君津市では行政主導で立ち上げ、1億円をかけて施設を作り、NPO法人に管理委託をしたが処理数は30頭に留まった。一方、埼玉県飯能市では猟師の人たちがもともとあった牛舎をリノベーションし、処理数は400頭。違いは何かというと行政がノウハウも無いのにとりあえず予算をとりハンターや関係団体の合意も取らずに建築したのに対し、飯生市ではハンター自らやると決めて牛舎を改築し経費をかけずに立ち上げたところに大きな違いがある。



質問：「株式会社MOMIJI」の従業員数は。

答弁：14名（地域づくり協力隊5名を含む）

質問：大槌ジビエソーシャルプロジェクトの目指すもの。

答弁：害獣捕獲だけでは誰も共感してくれない。捕獲したものをおいしい肉にすること、ディアスキンといって鹿皮は柔らかく人気があり売れ行き上々で久慈市でも合皮を扱う業者も多く取引をしている。食肉としても例えば串カツなど商品開発段階でも「おばちゃん」たちの雇用に評判が良く、また1言うと10の仕事をしてくれるほど手際がよく丁寧でまじめで仕事が早く非常に助かっている。

質問：販路拡大について。

答弁：キッチンカー40台を管理しており楽天生命パーク等で70万円の売り上げもある。ジビエカレーとして曜日限定メニューを出したがメディアにとりあげられ各販売店から注文が爆発的に殺到した。

また、県外からも体験学習としてジビエを捕獲、解体、調理体験を希望し訪れる観光化客も多く現在は一つのコンテンツとして事業に取り入れている。昨年は新渡戸文化小学校から体験学習として来ていただいた。動物を捕獲・解体し食する事は子供にとってどうなんだろうとの戸惑いもあったが、最初は少し抵抗があったようだ。

食の尊厳や自分たちで解体し無駄なくいただく貴重な時間になりSDGsと食文化に対する安全や食ロスについて学ぶ貴重な体験となっている。新渡戸文化小学校は富裕層の学校で幼、小、中、高校と守られた中の教育環境で育まれた子どもたちで、今のご時世何かがあるかわからない中、大槌のジビエを体験する事は普段経験できない希少な体験となるというお話を頂き、今年も校長自らご来訪され予約を頂いた。

質問：県外だけでなく地元の子供たちの反響は。

答弁：大槌町はふるさと課があり地域の農家や事業をやっている方々の一環として話をしたり解体をしたり、町内の保育園には給食で鹿肉を提供しているしアニメーションを作っている。大槌学園や5～6月には沿岸の図書館、久慈市のYOMUNOSUにもDVDが提供される予定となっている。

質問：猟友会との関係は。

答弁：良好だ。ただ鹿を納めるだけではなく販売箇所にも立ってもらい、キッチンカーなどでの売れ筋、顧客の反応などもみってもらい、自分たちが納めている鹿肉がこんなに喜んでもらっているんだと認識をあらためてもらった。その結果令和元年の新規狩猟免許取得者は0人令和2年度は1人、事業に着手した昨年は11人、今年も7～8人の取得でハンターのなり手が増員してきた。



質問：これからの課題、思いは。

答弁：課題はこれからのこの事業を展開していく上で変わってくると思うが事業を始めるあたりまず思ったことは大槌で成功させよう、岩手県内の方々の一助になりたいと思いスタートしたことは今も変わらないと思っている。産業として成功させる。流通として成立させる。ビジネスモデルとして成り立たせることだ。現在、宮古市のジビエをやりたいという若者とも一緒に取り組んでいるし、花巻市大迫のブドウ農家さんとも話を進めていて、事業の伴奏支援をさせていただいている。要するに岩手県の課題解決のために大槌のMOMI J Iが突破口としての役目を果たしたかったという事が嘘偽りのない今も変わらない思いだ。セブンイレブン、ローソン、ペットフードもそうだが商談は進んでいるがロットが追い付かない。大槌町で捕獲できる頭数は500~600頭、遠野市3,000頭、釜石市1,600頭、大船渡市1,500頭、陸前高田市]1,600頭など県内全体で20,000頭程度では岩手のシカとして需要に対して供給が届いていない、全く足りない。販路があり需要が高まればハンターさんが持ってきてくれるので是非一緒にやっていきましょう。

質問：パンフレットなど広報活動も優れているが周知活動はどうしているか。

答弁：それぞれ専門分野に優れた人間を配置し広報宣伝、猟師、加工など各分野を束ねる人材を配置している。

質問：最初の2年半という期間の取り組みが今の成功を生んでいると思う。食肉として頂けるということもだが、山に感謝、命に感謝という事ではないか。

答弁：その通りですが、実は最初はジビエ事業をやろうという話ではなかった。しかし、落としどころとしては雇用もないし仕事も減ったし、最初のパイオニアとして、第1号だから補助金を頂ける優位性もある事からそこを徹底的に追求した結果、いろいろな形で大槌町に目が向くのかな？という思いはあった。

質問：ハンターにはいくら支払っているのか。

答弁：県内一律だが8000円+1000円=9000円。大槌町では12000でレギュラーブレードは16,000、プレミアムブレード20,000円。首の肉をゲルマニウム検査機関に送る、全頭検査する。県の方で検査料は立て替え東北電力の方に請求するので「MOMIJI」の負担はない。因みに検査料は12,000円の経費はかかる。品質による価格の決め方は持参した時点で決まる。ただし、MOMIJI契約ハンターに限る。嘘をつくハンターがたまにいる。2時間以内と国が定めた基準を大幅に超え明らかに3~4時間経過した鹿なのに2時間と言って持ち込み者もいる。

レギュラークオリティは年齢制限はない0歳~10歳まで一律、罠でも銃でも関係ない。プレミアムクオリティはメスで4歳以下、オスで3歳くらい、さらに工場搬入は1時間以内で首より上を撃った物でないといけない。

質問：保健所の検査関係は。

答弁：イワチクさんに研修に行ったぐらいだ。あとは食肉処理場でさばく訓練をした。検査は加工施設を検査してもらっただけ。

質問：地方創交付金はいくらか。

答弁：1億円。国が5000万、特別交付金が付くので負担は800万程度だ。

質問：県内を束ねた総合商社を目指すのか。

答弁：そうではない。久慈市なら例えばクジジカと銘打って事業化すればいいし、「MOMI J I」の配下になれとかそういう事ではない。

質問：指導にあたりコースはあるのか。

答弁：ある。加工、経営、狩猟、検査など各分野によりコースごとに料金は異なる。指導にあたり呑み込みの早さは個人差があり一概には言えない。

質問：銃と罠との割合は。

答弁：ペットフード用は銃で300頭、罠は400頭くらい。ポテンシャル的には1000頭を目指している。

(6) 所 感

導入から現在の処理施設加工工場の建設に至るまで、延べ5年間の奮闘に敬意を表したい。害獣をまちを財政にし、産業ビジネス位置づけ雇用の開発、関係人口の増幅、まちづくり、コーディネーター自らが復興支援のために来町し、老婆と出会い町農家の困りごとを相談を受けたことが切っ掛けでコーディネーターとして町に君臨した。株式会社MOMI J Iには地域起こし協力隊のメンバー5人も在籍し14名のスタッフがそれぞれの専門分野を担い、官民一体による、よそ者、若者、女性活躍等、新しい企業のかたちとして理想の新規企業を設立している。新しいビジネスモデルだと感じた。

また、町のお困り事（鹿被害）の解決のため立ち上がり、自らが借金してまで解決しようとした青年が町を動かした事例だ。

久慈市でもハンターさんと料理人、地域が動き出した地区もあり今後はさらにジビエについて研修し、研究し、伴奏型である大槌町のご指導を仰ぎながら当市でも興味を持たれている地域おこし協力隊のチカラもお借りし、地域課題解決に向けて議員として議会としてのアプローチが出来ればと思います。

鹿肉は食用とペットフード、手づくりの民芸品では久慈市でも盛んな合皮製品、角や歯を活用したアクセサリー毛皮など地元の民芸品、岩手のジビエとして開発していければと思う。

今回の施設は、4月1日（土）のこけら落とし前の視察受け入れていただき、鹿肉をふるまっていたいただき感謝・感謝。

また今回日本共産党久慈市議団の合同視察でありましたが、皆さん真剣に受講し講師の藤原コーディネーターさんから勤勉だと有り難いお褒めの言葉を頂きました。クジジビエに向けてスタートを切りましょう。



次の施設見学も行ったので報告する。

陸前高田市立博物館

○対応者：陸前高田市立博物館 主事兼学芸員：浅川 崇典

○概要：陸前高田の豊かな自然・歴史・文化を、震災の記憶とともに未来へ伝え、地域に根差し、活力のあるまちづくりを推進する総合博物館

・2011年(平成23年)3月11日の東日本大震災により全壊された。

・この博物館は、令和4年11月に二つの博物館により建てられた。

1階：展示室、2階：収蔵庫とそれを制御する機械室、3階：展望デッキ

・九つのテーマにより構成されている。

①大地の成り立ち、②奇跡の海 三陸、③海をあがめ海にあらがわず海と生きる、④資料が語る陸前高田の歴史、⑤博物学の世界、⑥宿命と共に生きる、

⑦よみがえる博物館、⑧回たちの部屋、⑨発見の部屋

○所感

・今も安定化処理（震災で濡れて痛んだ紙を、元の戻すための作業）を、専門家の人がやっていた。一文字一文字を元に戻す、気の遠くなるような作業、根気のいる技術がいる、感心してきた。

・ここに来ると、陸前高田の歴史が一望に理解できる仕組みになっている。市で施設運営しているので入場料は無料。

高田松原津波復興祈念公園

(国営追悼・記念公園)

○概要：展示テーマ

「命を守り、海と大地とともに生きる」

～二度と東日本大震災津波の悲しみを繰り返さない縦に～

○展示構成

エントランス＝ガイダンスシアター、〈ゾーン1〉歴史をひもとく、

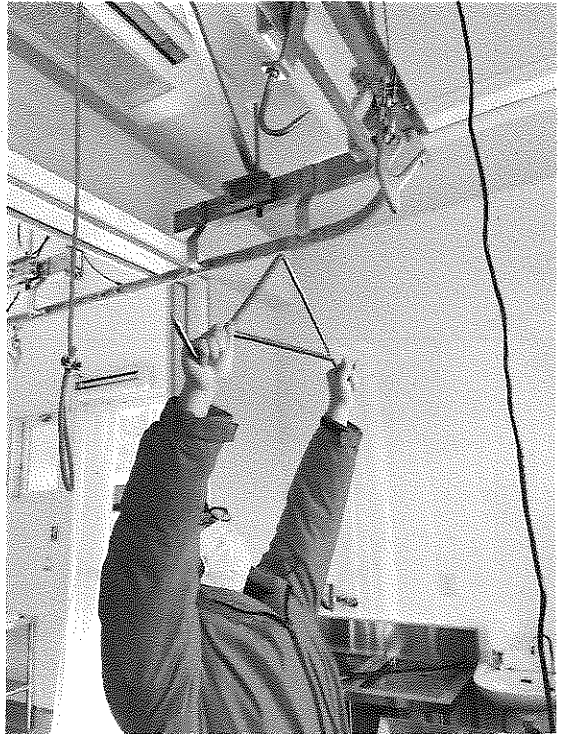
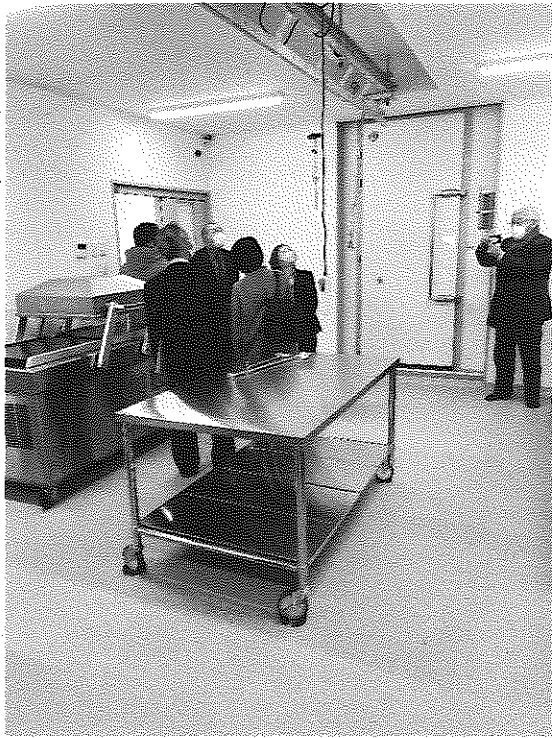
〈ゾーン2〉事実を知る、〈ゾーン3〉教訓を学ぶ、〈ゾーン4〉復興を共に進める

○所感

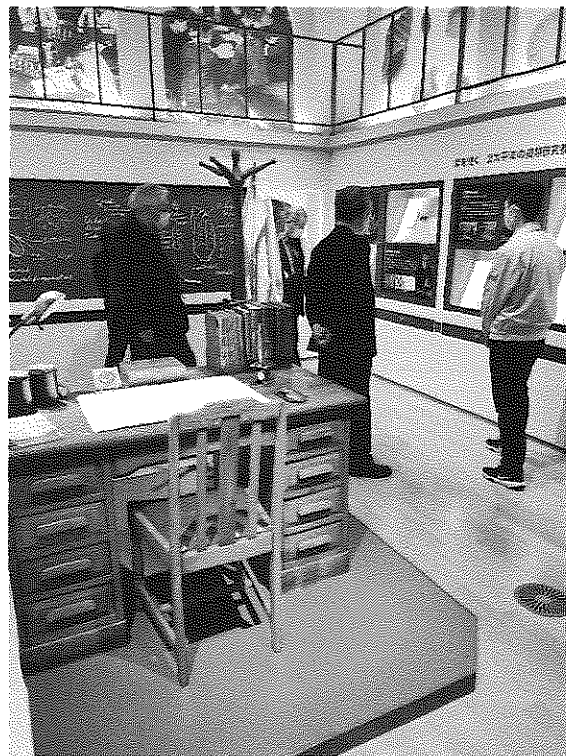
〈ゾーン1〉歴史をひもとく、に有った陸前高田市の分団の消防自動車が、壊滅的に壊され、運転不能の状態になっている姿が印象的であった。久慈でも野田でも見たが自然の恐ろしさを思い知らされる。

【大槌町】

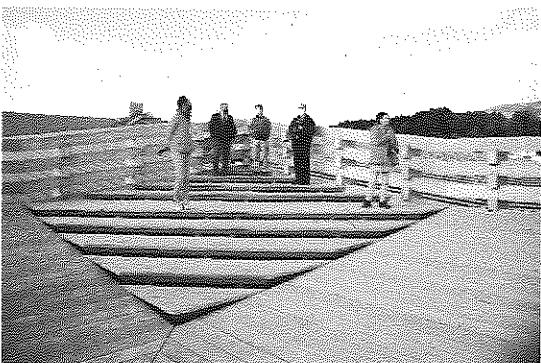
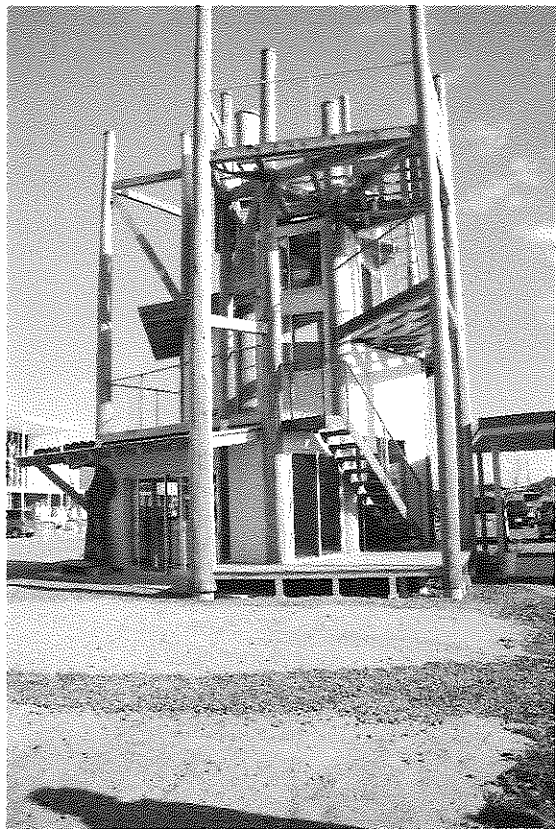
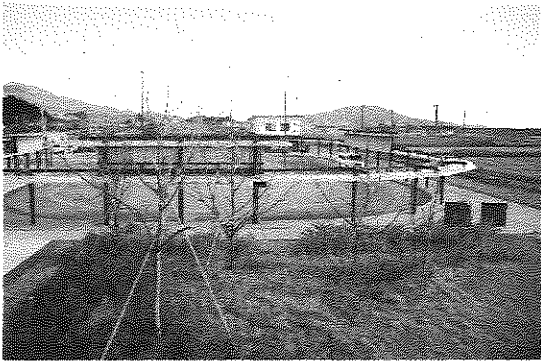
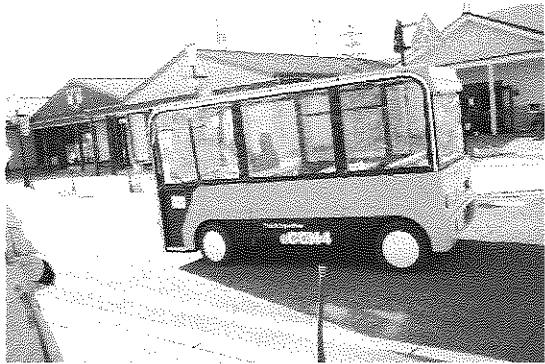
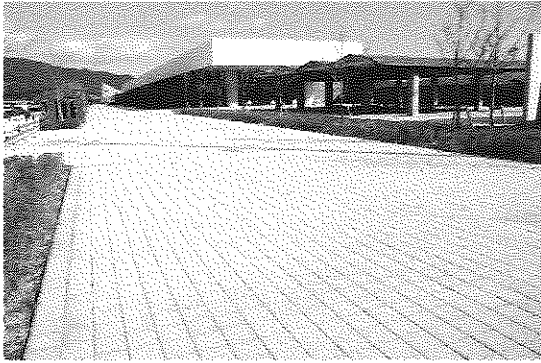




【陸前高田市】市立博物館



【陸前高田市】高田松原津波復興祈念公園



No. _____

領 収 書

令和
平成 5 年 3 月 27 日

政風会 様

金額									

但し タクシー代・バス代・チケット代・他
()



上記、正に領収致しました

係 印
三河

株式会社 三河交通観光

代表取締役 三河 博之
久慈市中央2丁目13番地

☎ 0194-53-6161 FAX 0194-53-6163



内 訳	
現金	<input checked="" type="checkbox"/>
小切手	<input type="checkbox"/>
振込	<input type="checkbox"/>

作成 令和04年3月22日

御旅程表

参加人数 6名

株式会社 三河交通観光
 久慈市中央2-13
 常手線加草辻番地3-418号
 旅行企画部 三河交通観光
 電話53-6161-080-7631-2722

お客様名: 政風会 様
 旅行先: 大穂・陸前高田・花巻
 旅行期間: 令和5年 3月 29日 (木)

日	月	日	時刻	内容	時刻	内容
1			見学 10:00 ~ 11:30 大穂シエ 9:50	久慈市役所 9:10	かき小屋広田湾 12:40	陸前高田市立博物館 13:20 14:30
			14:35	東日本大震災津波伝承館 道の駅高田松原	15:35	道の駅やまだ
			16:50	道の駅やまだ	17:05	久慈市役所
			18:30			

昼食...12:00~ かき小屋広田湾 かき満喫御膳(深しかき5個、かきご飯、小鉢、香の物 1452円)
 マスク着用で参加願います。 走行中は席を立たないようご協力お願いいたします。 バスからの乗降時には、手摺の消毒にご協力お願いいたします。